

●1分で見える世界景気／2019年1月末から見た2019年2月動向

※米中貿易戦争、英国EU離脱、地政学リスクが入り混じる中、米国利上げ見送りは好影響。ほっと一息。

欧
州

**英国/離脱協定案決定の
膠着状態継続、離脱時期
不透明に**

EU ・18年10-12月GDP+0.2%
・ドイツ、イタリアがマイナスの一方で、
フランス、スペインが健闘

●主要国GDP動向は明暗分かれる

・独/18年7-9月GDP▲0.2%

・伊/18年10-12月GDP▲0.2%

・仏/18年10-12月GDP+0.3%

・スペイン/18年10-12月GDP+0.7%

欧州中銀

・18年12月で量的緩和政策打ち切り
・ECBのシナリオ通りに年内利上げがあるか

中国

米中貿易摩擦

経済減速鮮明に

●18年GDP+6.6%

(昨年比▲0.2ポイント)

※1990年以来の低水準、28年ぶり

※18年自動車販売台数も

▲3%で28年ぶりのマイナス

●18年10-12月+6.4%

(7-9月より▲0.1ポイント)

※2009年1-3月以来の低さ

・景気対策拡大(約2兆5千億元(約40兆円))
過剰債務対応と景気刺激の難しいカシ
取りが必要

トランプ政権

米国

・中国との貿易交渉が2月中にまとまるか?

地政学&米中貿易摩擦

雇用増加が全体を牽引

12月雇用増加数+31.2万人(11月+15.5万人)

12月失業率3.9%(11月3.7%)

12月新車販売台数+1.5%(前年同月比、11月▲0.8%)

10月住宅価格指数+5.0%(前月比、9月+5.2%)

12月消費者物価指数+1.9%(前年同月比、11月+2.2%)

FRB1月、追加利上げ、見送り

日本

地政学&中国景気減速

戦後最長74ヶ月の景気拡大を達成

・11月有効求人倍率1.63倍、失業率2.5%

※GDP19年度見通し+1.3%、18年度見込み+0.9%

●日銀 2%物価目標達成時期まで金融緩和継続

※2019年度物価見通し+0.9%

①フォワードガイダンスの導入

②短期金利(-0.1%)、長期金利を0%へ誘導

③長期金利変動幅は従来の±0.1%から±0.2%を念頭に

③長期国債、ETF、J-REITの買い入れは柔軟に

新興国 中国の影響は2極化

●ブラジル/19年GDP予想+2.5%

●ベトナム/2018年GDP+7.08%、2018年投資+9.1%

●オーストラリア/12月住宅価格は前月比
▲1.3%で35年ぶり落ち幅

緩利ペース